

東彼杵 ダラフ

20/23郷 蕪郷

風光明媚な地を生かした
魅力ある地域づくりを目指す蕪郷。
みんなの手でよみがえった棚田は
実りの多い収穫だった。



地区ではほとんどが手間のかかる掛け干し。稲刈り後は稲束を手際よく掛けていく



8年ぶりに輝いた棚田と笑顔

「ようまとまってる」「みんな仲がよか」が他所での蕪地区の評判。何度か足を運ぶと、そのイメージ通りで、自分たちで地区を守るといふ強い気持ちを感じることができる。

茶畑と棚田が広がり、遠くに大村湾も見える高台にふれあい農村交流広場がある。ここは町のまちづくり支援交付金を活用して地区で造成したところで、もともとは山林だったと聞いて驚いた。「個人の山やったけど、蕪の自治会として、どうしても前から欲しかったけん。景観がよかもんね。町に協力していただいて造る

ことができました」と区長の野口幸義さん。

広場には芝生を張り、休憩できる東屋を建てた。健康づくりのためにと、ユニークな健康器具「カブラン」も設置した。地区ではここをイベント等の会場にして、都市部の住民と交流していきたい考え。東彼杵町らしい茶と米づくりの田園風景が魅力で、人気のスポットになりそうだ。

また、地元で収穫した農産物の加工・販売所、米の機械利用組合の農機具倉庫など、この先に必要となる活用法についてをた

だ今、協議中とのこと。

地区ではほかにも蕪池に遊歩道を整備したり、町道にアジサイを植栽したり、歴史公園“彼杵の荘”の明治の民家の茅葺き屋根の茅を提供したりと、地域活動を活発に行ってきた。「過疎化にならんようにと、蕪を魅力的なところにしようと、みんな協力してくれて、頑張ってくれよるですよ」と野口さん。地区のことを話す時は誇らしげだった。

昨年度には、農家の後継者不足や耕作放棄地の問題に有志で向き合い、“蕪里山の会”

みんなから慕われる
区長の野口幸義さん。
蕪郷のために一生懸命だ、

「ここらはほんとよかところですよ」と
笑顔がはじけた西さん、



“蕪里山の会”の
上野治美さん(左)
山道康人さん(中)
田中和博代表(右)

が立ち上がった。「まずはみんなで何かせんばねと思って。米を3反ほど、お茶を5、6反ほど、われわれでやることになった。当然、まだボランティアで日当はない。機械は持ち寄ってという状況です」と副代表の山道康人さん。

みんなで作った農産物は付加価値を付けて“蕪ブランド”として売り出したい。その一環として、東そのぎロハスの郷の田中リョウスケさんをアドバイザーに迎えて、無農薬での米づくりにもチャレンジした。初めてにしては上々の出来具合で、来年度も続けていくという。

畦道で西幸代さんに出会った。「何もせんばねで家で黙っととは寂しかとですよ。小さか時から農業ばしときてるけん」と愛犬のテンテンを連れて、野良仕事に出るのが日課と言う。ここ数年は耕作せず、周りの草払いだけを少しずつ行っている。「やほにはしとうなかった。じいちゃんが一生懸命なっしたとば、私が目の見えているうちは、しいきるうちはせんばねと思って」

立派な石垣の向こうには家屋と牛舎跡があった。「昔はここらにも“ばくりゅうさん”って、

牛で商売をしとった人がおったとよ。うちも4、5頭を飼っておりました。私が小学生の頃は、鼻取りって、牛ば引かせられてね。広か田んなかを泣きながら引いておりました(笑)」と西さん。

今秋、そんな思い出いっぱい場所に黄金色の風景がよみがえった。「この時期に、こなんなればうれしかとですよ。してくれらしてよかった。本当にありがとうございます」と西さんの顔はほころぶ。代々で守ってきた田んぼは“蕪里山の会”に引き継がれて輝きを取り戻した。

池畔で見つけたカナダの美景

蕪池周辺を歩く。標高350mほどと東彼杵町では高所にあるためか、晴れていても少し肌寒く感じる。カヌーやツリーハウス、ガレージがある、男心をくすぐるエリアに出た。退職後に長崎市から移住し、田舎暮らしを楽しむ小林哲朗さんの家だった。「今度で8年目になります。もともと釣りが好

きで、県内の大村湾沿いはほとんど回ったけどいい物件がなくてね。そいで上ってみたら、こんなよかところがあった。カナダのような景色に惚れました」と小林さん。

移住者の先輩に、ここに来て初めてしたことを聞いてみた。「地区の案内板を書いて各所に設置しました。他所から来

た人は迷うだろうと思って」。ヨソモノ目線をすぐ行動に移すところはさすが。「すると、地元の人の方からあんたが小林さんかいと声がかかるようになった」。

地区の上野年明さんを代表としたグループ“グリーンアップin蕪”にも参加し、蕪池の周囲に遊歩道を整備。よかところ



ノ木々のいいにおいがする蕪池の遊歩道。若いモミジはちらほらと色つき始めている



ノ「景色がよく、星もキレイ」と小林哲朗さん。実はカナダには行ったことがないそうだ

に人を呼ぶための仕かけはさらに続いた。「蕪池とその周辺を紅葉と桜の名所にしよう!」とグループでモミジの苗木を約100本、桜の苗木を約140本植樹した。

もともとのづくりが好きだった小林さんは、在職中からステンドグラスを制作。30年ほどのキャリアがあり、家に併設した工房では小物づくり体験などもできる。「この辺は四季を通していろいろあるたいね」と、ステンドグラスのほかにも原木シイタケのオーナー制度やイチゴ狩り、ブルーベリー摘みなど楽しいことを考えては多くの人と交流している。

「紅葉はところどころで見られます。桜も

あと5、6年もすればすごいことになるはず」と小林さん。蕪地区の地域おこしの種蒔きは順調なようす。ところどころから大きな根が出てくるのが、今から楽しみでならない。

※蕪郷へは、町営バス「春木」のバス停を利用。

次回は瀬戸郷。お楽しみに!

※12月号は休載します。次郷は1月号からです。